

# 出 会 い の 森

玉津小学校便り No. 4

(令和3年7月2日発行)

玉津小学校

検 索

※ホームページもぜひご覧ください。

## 子ども一人ひとりの良さを認める “玉津のびのび書写（毛筆）教育”

校長 坂元 裕則

7月に入り、いよいよ1学期のまとめの時期となりました。本格的な夏到来ということで、学校やお家の方でもコロナ対策に増して熱中症対策にも気をつけなければならない時期でもあります。保護者の皆さまには、お子さんの心身の健康維持と励ましを続けていただき感謝申しあげます。また、毎日の登下校時に子どもたちに寄り添い、温かい声をかけ、励まし、見守り活動を続けていただいている地域の皆さまに心より敬意を表します。



先日、県内の高等学校および小学校より2名の先生方をお招きして、5年生「書写（毛筆）」の授業を参観していただき、本校の書写指導力向上チームによる研究会を行いました。4月に滋賀県書教育指導の第一人者である今井みづ子先生による全体研修をはじめ、5月には外部より2名の先生にお越しいただき、4年生「書写（毛筆）」の授業参観と研究会を行ったところです。本校では今年度、校内研究「外国語活動・外国語科」を軸に「書写指導力向上」にも力点を置き、書写指導力向上チームが中心となって取り組みを進めています。『人間形成』を理念とした滋賀県の書教育ですが、本校においてもこの理念に基づき、子どもらしさをより引き出し、子どもたちの中から“書いていて、楽しい！”と感じる書写指導の構築をめざしています。

授業後の研究会時に「友だちの作品の良さを発表し合う場面で、子どもたち同士で自然に話し合い、多くの意見を出し合う雰囲気がとても素晴らしかった」と講師の先生方を含め、本校の先生たちも感心されておりました。また、「書く速さを変えて、かすれを出したという子どもの発言は素晴らしい」、「体全体を使って書くことができていた」など子どもたちの良さがたくさん述べられました。さらに「もっと書きたい」という発言は子どものやる気を認める意味から技能以外でもその場でほめることが大切である」という意見も出ておりました。

「書写」＝「人間形成」。

日本文化の大切なひらがなや漢字を毛筆や硬筆で書くことにより、子どもたちはいろいろなことを学びます。本校の書写（毛筆）教育は教科書のお手本を見て、「そのまま真似して書こう」というのではなく、教科書を活用しながら指導者が子どもへの指導や授業を工夫していくことに重点を置いています。また、技能本位に偏らず、子どもたち一人ひとりの違いを理解し、その子の良さを認め、ほめることでのびのびと取り組める環境づくりに努めます。

そして、書写に限らず、あらゆる場面で子どもたちの心を育て、子ども同士が互いに良さを認め合う仲間づくり、学校づくりをめざして教育活動を進めていきます。今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。





# 玉津小 1 学期の取り組み



わかくさの仲間が大きな玉ねぎを収穫しました。あまりの大きさにびっくり。とてもうれしそうでした。収穫後は夏野菜やサツマイモの苗を植えました。毎日水やりをがんばっています。



地域の方の協力のもと、5年生が田植えをしました。泥の感触を足で感じながら、苗を丁寧に植えました。秋にお米を収穫するのが楽しみです。

6月3日(木)、6年生がカヤック体験をしました。湖上から見る景色はとてもきれいで、自慢の湖としてこれからも環境を守っていきたいと考えました。



4年生のプール開き。昨年度は水泳学習ができませんでしたが、本年度は回数を減らして行っています。プールの水が気持ちよくて、みんな笑顔いっぱいでした。



1年生が矢島の公園探検に出かけました。楽しい遊具がたくさんあり、仲間と楽しく遊びました。池に鯉がいるのを発見しました。



3年生が市内のスーパーマーケットの見学をしました。お店では、お客さんが買い物をしやすいように様々な工夫をしていることに気づきました。



2年生は、夏野菜を育てています。毎日水やりをし、生長を楽しみにしています。トマトだけでなく、ナスやキュウリも大きくなり、収穫できています。